

川柳集　　く文藝部かるた作りたいの巻く

雨和七瀬

「アマオダヨ」　なぜウケたのか　分からない

言うなれば　わらべ心の　延長戦

上見ると　謎の仮面が　こつち見てる

絵を描ける　部員に縋る　画伯達

重くても　デツキケースを　持ち歩く

書き終えて　掲載すると　誤字がある！

昨日から　ペットボトルが　置かれてる

苦しけりゃ　逃げてもいいさ　締め切りは

ケーキ買い　部室で切つて　食べたわね

転んでも　ただでは起きぬ　留年生

サークルの　部屋広げたい！　部屋をくれ

試作品　まだ作れてない　TCG

スマ○ラの　練度が上がる　三次会

先輩と　呼ばれたところで　まだヒヨコ

諳んじる　ネットミームの　大合唱

託された 古本たちを 売りさばく

寝ないんか？ 深夜に響く 通知音

散らかった 部屋を愛しく 思いつつ

飲み会は 前後編とも 本番です

連れだって 狭い麵屋に ぎゅむぎゅむと

半ページ 進めば御の字 締め切り前

天才と 思った次の日 筆止まる

ひと瓶の シリアス入れて にやけ顔

友達の 約束果たす 大長編

不束な 作品ですが 世に放つ

「なんとなく」 執筆なんて そんなもん

偏屈な 自分が許さぬ クソ駄文

似た話？ 読後感から 違うだろ

本好きじゃ 無くてもいいさ 遊ぼうぜ

抜け出してえ おもんな作品 生み出すの

まだ舞える 締め切り後から 本気出す

来年は 超大作を 書きたいな

身に染みる 部員から得る 好感触

隣人に 謝りながら 執筆会

無理のある 設定だって 気にしない

ルビを振る スペースが空く そつと消す

面倒な 描写を省く その勇氣

連載を してみたけれど 続かない

もう一度 使い回すか この設定

老害の ムーブを避ける 気持ちだけ

やりきった 途端に上から 目線だな

我が道を 進む姿が 面白い

夢を見て 忘れぬうちに 書き留める

「を」の数を 減らした方が 良いのかな

余裕ある うちに小説 書くんだよ (自戒)

んゝ駄作！ 他人が見れば 「面白い！」